



第196号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

## 十五年前の写真

おかみそり（帰敬式）の記念撮影した写真ができて

ました。平成21年の写真ですので15年前になります。

まずは自分の姿を見ます。まだまだ若かったです。

次に門徒さんに目を移します。みなさんお元気そうで

す。しかし、この方も、この方も亡くなっています。

約半分の方が亡くなりました。当時80歳だったこの方

は今ご存命なら95歳ですが、今年七回忌を勤めました。



年月がたつのは早いですね、と他人事のように言いますが、老いの早さ、死への早さを切実に感じます。

誰もが一生過ぎやすい身を持ち生きています。

## 浄土寺の阿弥陀様

釋 綽智

五月下旬にかねてよりお参りしたいと思っていた兵庫小野市にある浄土寺に行ってきました。

天気と体調も良かったので思い切って出かけました。

今ではスマホで簡単に見ることができそうですが直接実物を見るのにはかきません。神戸か約30キロほど北西にあります。東播平野（とうばんへいや）は田植え前で水田が光ってみえました。

## 一、ポツーンと一軒、浄土寺

六甲山地を越えても山道が続きましたが平地では田んぼがあり田植え前の山道を走り続けてやっと小野市役所に着き、庁内の案内所で聞くと寺までは2キロく

らいあるという。それで日照りの中の田んぼ道を歩いては体力が消耗すると思いタクシーをたのみ、午前11時頃に寺に着くことができました。寺は背後の山に続いた尾根の一部を開いた狭い境内で、目的のお堂はその先端にあつて、とても見晴らしがよかったです。

## 二、寺は源平合戦後に再建

奈良の東大寺もこの源平合戦で焼失したので重源上人が建物をつくり、中の阿弥陀三尊は快慶仏師がつくられた。円形の蓮華座の上に三尊の立像ですから見上げて礼拝することになります。高さは7メートル以上もありますので、その大きさに圧倒されました。合掌しながらぐるぐる回って礼拝するだけで堂内に他には何もありません。出る時に受付の奥さまは近くに住ん

でいて市から囑託をされている方でした。そして近くにレストランがあると教えていただきました。

### 三、播州人は無垢で純情

レストランの入り口近くに二人の男性が腰掛けていたので順番待ちだと思い尋ねるとうなずかれたので一緒に待ちました。そして5分程して中に入って驚いたのは50人くらいの超満員でした。三人が同じコーヒー付きの定食を注文しました。また少し待つと御膳が出てきまして、ご飯をひと口食べて「おいしい」と声が出てしまうと、前のお二人さんは「それは播州米で酒米（さかまい）だからね」と異口同音におっしゃった。それで「灘の生一本（なだのきいっぽん）」じゃねえ、と声が出てしまいました。三人が笑顔で食べてからお

手洗いに寄って帰るとお二人が会計を済ませてしまっておられたので驚き、感謝して、お代だけは渡しましたが、お人柄がよく伝わりました。

さらに外でお別れの挨拶と思っていたら、なんと車で駅まで送っていただきました。

人情の棧微に触れました。なんとお二人は浄土寺の檀家さんでした。正式には極楽山浄土寺と称します。



## 夏のセミ

けいこしゅんじゅう  
 蟪蛄 春秋を識らず、

いちゅう  
 伊虫あに朱陽の節を知らんや

どんらんだいし じょうどろんちゅう  
 曇鸞大師 『浄土論註』

セミは幼虫の頃は土の中で何年も過ごして、成虫になると外の世界に出てきます。ですからセミは夏しかしりません。しかしセミは春や秋、冬の世界を知りません。春や秋、冬の世界を体験しているからこそ夏というものがわかります。したがって、夏しか知らないのではなく夏も知らないということになります。

しかし、考えてみれば我々は春や秋、夏、冬をしつかりと受け入れて生きているでしょうか。暑いだ、寒

いだと愚痴を言いながら避けているだけで本当にその季節季節を生きているとはいえるでしょうか。知っているとつい込んでいるだけで実は知らないということがほとんどすべてではないでしょうか。



## 行事予定

七月二十八日(日) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め

同朋会例会